



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/07/03
SDS整理番号 26062750

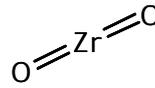
製品等のコード : 2606-2750、2606-2730、2606-2780、2606-2790

製品等の名称 : 酸化ジルコニウム(200メッシュアンダー)

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
窯業原料、耐火物材料、顔料、触媒、燃料電池(固体電解質型)、
構造材料・機能材料・切削工具・耐摩耗部品・圧電素子・
セラミックコンデンサー・光学ガラス添加剤、医薬部外品添加物(化粧品等) など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 分類できない
皮膚感作性 : 区分1

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き

【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

| | |
|--------------|--|
| 化学物質, 混合物の区別 | : 化学物質 |
| 化学名 | : 酸化ジルコニウム (別名) 酸化ジルコニウム(), 二酸化ジルコニウム、ジルコニア、 ジルコニウム(IV)ジオキシド (英名) Zirconium oxide、Zirconium() oxide、 Zirconia、Zirconium() dioxide、 Zirconium dioxide (EC名称)、 Zirconium oxide (ZrO ₂) (TSCA名称) |
| 成分及び含有量 | : 酸化ジルコニウム、99.9%以上 (ZrO ₂ + HfO ₂) |
| 化学式及び構造式 | : ZrO ₂ 、構造式は上図参照(1ページ目)。 |
| 分子量 | : 123.22 |
| 官報公示整理番号 | : 化審法 (1)-563 |
| | : 安衛法 公表化学物質(化審法番号を準用) |
| CAS No. | : 1314-23-4 |
| EC No. | : 215-227-2 |
| 危険有害性成分 | : 酸化ジルコニウム |

4. 応急措置

| | |
|-----------|---|
| 吸入した場合 | : 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | : 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激または発疹が生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。 |
| 目に入った場合 | : 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | : 口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。 |

予想される急性症状及び遅発性症状: 情報なし

5. 火災時の措置

| | |
|-------------|--|
| 適切な消火剤 | : この製品自体は燃焼しない。 周辺火災に応じた消火剤を使用すること。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂 |
| 使ってはならない消火剤 | : 特になし |
| 特有の危険有害性 | : 火災によって有害なガスを発生するおそれがある。 |
| 特有の消火方法 | : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。 |
| 消火を行う者の保護 | : 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------------|--|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。 |
| 環境に対する注意事項 | : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 |
| 回収、中和 | : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。 |
| 封じ込め及び浄化の方法・機材 | : 危険でなければ漏れを止める。 |

二次災害の防止策：排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|-----------|---|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | ：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 粉じんの発生、堆積を防止する。 |
| 局所排気・全体換気 | ：粉じんが発生する場合、局所排気又は全体換気を行なう。 |
| 安全取扱い注意事項 | ：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 |
| 接触回避 | ：湿気、水、高温体との接触を避ける。 |
| 保管 | |
| 技術的対策 | ：保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明 及び換気の設備を設ける。 |
| 保管条件 | ：直射日光や高温多湿を避けて保管する。 容器を密閉して冷暗所に保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。 |
| 混触危険物質 | ：強酸化剤 |
| 容器包装材料 | ：ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等 |

8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|---|---|
| 管理濃度 | ：未設定 |
| 許容濃度（ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH 設備対策 | ：生物学的ばく露指標）： 未設定 TLV-TWA 5mg/m ³ （ジルコニウムとして） ：取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。 この物質を貯蔵しないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置 する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | ：保護マスク（防じんマスク、簡易防じんマスク）を着用する。 |
| 手の保護具 | ：保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。 |
| 眼の保護具 | ：眼の保護具（保護眼鏡、側板付き保護眼鏡）を着用する。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | ：長袖作業衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、保護長靴を着用する。 |
| 衛生対策 | ：取扱い後はよく手を洗う。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|----------------|--|
| 物理状態 | |
| 性状 | ：粉末（200メッシュアンダー） |
| 色 | ：白色～微褐色 |
| 臭い | ：無臭 |
| pH | ：3～4（5%水分散液、20℃） |
| 融点 | ：2700 |
| 凝固点 | ：データなし |
| 沸点 | ：4300 |
| 引火点 | ：引火性なし |
| 可燃性 | ：不燃性 |
| 爆発範囲 | ：爆発性なし |
| 蒸気圧 | ：データなし |
| 相対ガス密度（空気 = 1） | ：データなし |
| 密度又は相対密度 | ：5.49g/cm ³ （20℃） |
| 比重 | ：データなし |
| 溶解度 | ：水に溶けない。 塩酸、硝酸にわずかに溶ける。 66%硫酸に溶ける（加温下）。 ふっ化水素酸にやや溶ける。 |
| オクタノール/水分配係数 | ：データなし |
| 発火点 | ：データなし |
| 分解温度 | ：データなし |
| 粘度 | ：データなし |
| 動粘度 | ：データなし |
| 粒子特性 | ：粒径 200メッシュアンダー（75µm以下） |

GHS分類

| | |
|-----------|--|
| 可燃性固体 | : 本品は不燃性であることから、区分に該当しないとした。 |
| 自然発火性固体 | : 本品は不燃性であることから、区分に該当しないとした。 |
| 自己発熱性化学品 | : 本品は不燃性であることから、区分に該当しないとした。 |
| 水反応可燃性化学品 | : 本品は水に溶け難く、水に対して安定である(水との混触で可燃性ガスの発生がない)と考えられるので、区分に該当しないとした。 |

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)

| | |
|------------|---------------------|
| | : 通常の取扱条件において安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | : データなし |
| 避けるべき条件 | : 強熱 |
| 混触危険物質 | : 強酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物 | : 特になし |

11. 有害性情報

| | |
|------------------|---|
| 急性毒性 | : 経口 分類できない。 ただし、多量の飲み込むと、めまい、発汗、温痛感の亢進など症状が現れることがある。 経皮 分類できない。 吸入(蒸気) 分類できない。 吸入(粉じん) 分類できない。 ただし、粉じんを多量に吸入した時は、鼻、のど等の気道を刺激することがある。 |
| 皮膚刺激性/刺激性 | : 分類できない。 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | : 分類できない。 ただし、眼に入ると刺激が現れることがある。 |
| 呼吸器感作性 | : 分類できない。 なお、DFGOT vol. 12 (1999) は、ジルコニウム及び他のジルコニウム化合物の情報をもとに、ジルコニウム及びジルコニウム化合物を呼吸器感作性物質に分類しているが、本物質の情報はないため分類できないとした。 |
| 皮膚感作性 | : 本物質はヒトに対して肉芽腫性皮膚反応(Granulomatous skin reactions)を引き起こすとの報告がある(DFGOT vol. 12 (1999))。DFGOT vol. 12 (1999) は、ジルコニウム及びジルコニウム化合物を感作性物質(Sah)に分類している。 以上より、区分1とした。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ(区分1) |
| 生殖細胞変異原性 | : 分類できない。 |
| 発がん性 | : 区分に該当しない。 ジルコニウム(CAS番号: 7440-67-7)に関し、ACGIHはジルコニウム及びジルコニウム化合物の発がん性をA4に分類した(ACGIH (7th, 2001))。 |
| 生殖毒性 | : 分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | : 分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | : 分類できない。 ヒトにおいて、本物質のばく露を受けた労働者の肺に影響がみられないとの報告がある(DFGOT vol. 12 (1999))。一方、肺の変化(喘息、気管支炎、塵肺、類肉芽腫、肉芽腫性間質性肺炎)が報告されているが、肺の傷害を生じるような他の物質のばく露も受けており本物質との関連性は明確でないとの報告がある(DFGOT vol. 12 (1999))。しかし、3人の肺の肉芽腫性変化中にジルコニウムが確認された例、1名ではあるが外因性アレルギー性肺炎がみられた。肺の組織学的検査において、巨細胞中への異物の含有と線維化を伴った「異物によって誘発された様々なステージの類上皮細胞肉芽腫」がみられ、異物の主な構成成分はジルコニウムであり、同様な変化は皮膚においてもみられ、乳腺及び腋下リンパ節に肉芽腫様変化がみられたとの報告がある(DFGOT vol. 12 (1999))。実験動物ではラット、ウサギ、イヌ、モルモット、ネコを用いた吸入毒性試験において有害影響はみられていないとの報告(DFGOT vol. 12 (1999)、ACGIH (7th, 2001))、ラットを用いた混餌投与試験においても有害影響はみられていないとの報告がある(DFGOT vol. 12 (1999))。以上のように、ヒトにおいて本物質の影響を完全には否定できないことから、分類できないとした。 |
| 誤えん有害性 | : 分類できない。 |

12. 環境影響情報

| | |
|----------------|---|
| 生態毒性 | |
| 水生環境有害性 短期(急性) | : 分類できない。 |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | : 分類できない。 |
| 残留性・分解性 | : データなし |
| 生物蓄積性 | : データなし |
| 土壤中の移動性 | : データなし |
| オゾン層への有害性 | : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。 |

13. 廃棄上の注意

| | |
|----------|---|
| 残余廃棄物 | : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出することは避ける。 (参考)埋立法 そのまま、埋立て処分する。 |
| 汚染容器及び包装 | : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|---|--|
| 国内規制(適用法令) | |
| 陸上規制 | : 特段の規制なし(非危険物) |
| 海上規制 | : 特段の規制なし(非危険物) |
| 航空規制 | : 特段の規制なし(非危険物) |
| 国連番号 | : 非該当 |
| 国連分類 | : 非該当 |
| 品名 | : 非該当 |
| 海洋汚染物質 | : 非該当 |
| MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 | : 非該当 |
| 特別の安全対策 | : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。 |

15. 適用法令

| | |
|----------------------|--|
| 労働安全衛生法 | : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第313号「ジルコニウム化合物」、対象重量%は 1) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第313号「ジルコニウム化合物」、対象重量%は 1) (別表第9) |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) | : 非該当〔2023年(R5年)4月1日施行にも非該当〕 |
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 消防法 | : 非該当 |
| 船舶安全法 | : 非該当 |
| 航空法 | : 非該当 |
| 海洋汚染防止法 | : 非該当 |
| 輸出貿易管理令 | : キャッチオール規制(別表第1の16項) HSコード: 2825.60 第28類 無機化学品 ・輸出統計番号(2023年4月版): 2825.60-000 「ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩並びにその他の無機塩基、金属酸化物、金属水酸化物及び金属過酸化物 - ゲルマニウムの酸化物及び二酸化ジルコニウム」 ・輸入統計番号(2023年4月1日版): 2825.60-200 「ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩並びにその他の無機塩基、金属酸化物、金属水酸化物及び金属過酸化物 - ゲルマニウムの酸化物及び二酸化ジルコニウム - 2 その他のもの」 |

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

| | |
|--|----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険・有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances | NIOSH CD-ROM |
| GHS分類結果データベース | nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報 | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。